

**平成20年度 農山漁村型ワーキングホリデー実態調査報告書**

平成21年3月

**財団法人 都市農山漁村交流活性化機構**

# I 調査概要

## 1 調査内容

本調査は、滞在型グリーン・ツーリズムの推進を図る基礎資料とすることを目的として、全国の農山漁村型ワーキングホリデー(農業等の営みや農山漁村での暮らしに関心を持つ学生、大人等の都市住民が農山漁村を訪れ、当該地域で宿泊滞在をしながら農作業などを手伝い、農業等や生活文化などを学ぶ取組み)の取組の実態を把握したものである。

## 2 調査対象

全国の市町村を対象に調査した。

## 3 実施期間

平成21年2月中旬～平成21年3月上旬

## 4 調査方法

財団法人都市農山漁村交流活性化機構からの郵送調査により行った。

## 5 調査票の回収率等

配布数 1,781市町村  
回答数 1,155市町村  
回答率 64.8%

## 6 調査内容(項目)

- 1 取組の有無について
- 2 検討に際しての課題について
- 3 取組の状況について
  - (1) 取組内容について
    - ① 取組の開始時期
    - ② 取組の場所
    - ③ 実施主体の組織形態
    - ④ 受入の内容
    - ⑤ 参加者への労働報酬(賃金)の支給
    - ⑥ 参加者の宿泊先
    - ⑦ 参加者の受入滞在日数
  - (2) 取組の狙いと効果について
    - ① 取組の狙い
    - ②-1 都市農村交流面での効果
    - ②-2 農業振興面での効果
    - ②-3 定住促進面での効果
  - (3) 利用状況について
    - ① 年間参加者数
    - ② 年間参加者延べ日数
    - ③ 男女別構成
    - ④ 年代別構成
    - ⑤ 参加者のリピーター数
  - (4) 参加者の募集について
    - ① 望まれる参加者の姿
    - ② 参加者の募集方法
    - ③ 募集人数に対する実際の参加者数
    - ④ 募集人数を下回った要因
    - ⑤ 改善を図るための取組
  - (5) 今後の課題について

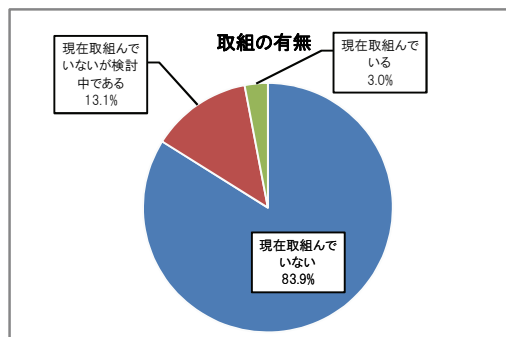
## Ⅱ 調査結果

### 1 取組の有無について

農山漁村型ワーキングホリデーの取組状況は、「現在取組んでいない」が82.9%、「現在取組んでいないが、検討中である」が12.9%、「現在取組んでいる」が4.2%となっている。

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
現在取組んでいない	948	82.1	83.9
現在取組んでいないが検討中である	148	12.8	13.1
現在取組んでいる	34	2.9	3.0
その他(WH以外の取組)	25	2.2	
合計	1,155	100.0	1,130

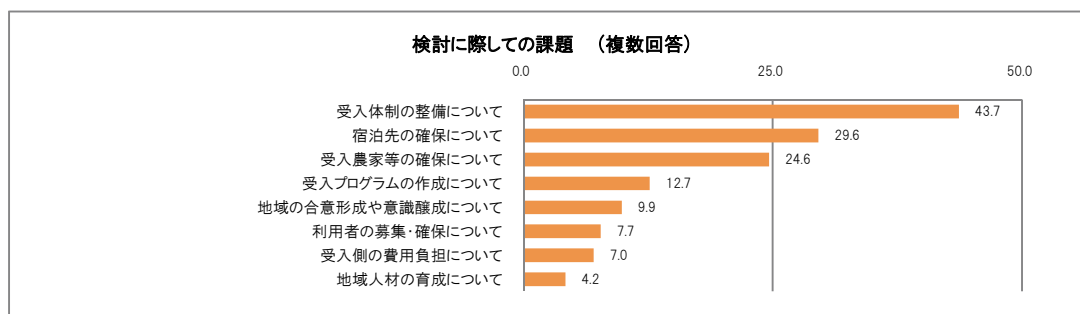
※「現在取組んでいる」と回答した中で、棚田オーナー制の取組、子どもを対象とした体験型教育旅行受入の取組、農家民宿や農村民泊の取組、特定の大学によるオープンカレッジの開催、特定の大学生を対象とした派遣事業による農山漁村での受入の取組等の25例の取組は、集計・分析対象から除外した。



### 2 検討に際しての課題について

現在取組んでいないが検討中であると回答した中で、検討に際しての課題は、「受入体制の整備について」が43.7%と最も高く、次いで、「宿泊先の確保について」が29.6%、「受入農家等の確保について」が24.6%の順となっている。

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
受入体制の整備について	62	41.9	43.7
宿泊先の確保について	42	28.4	29.6
受入農家等の確保について	35	23.6	24.6
受入プログラムの作成について	18	12.2	12.7
地域の合意形成や意識醸成について	14	9.5	9.9
利用者の募集・確保について	11	7.4	7.7
受入側の費用負担について	10	6.8	7.0
地域人材の育成について	6	4.1	4.2
不明(無回答)	6	4.1	
サンプル数(%ベース)	148	100	142



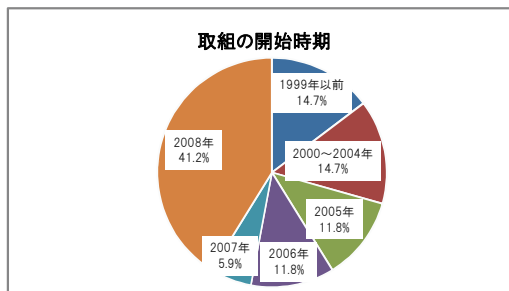
### 3 取組の状況について

#### (1) 取組内容について

##### ① 取組の開始時期

取組の開始時期は、「2008年」が41.2%と約4割以上を占めており、「2000年以降」のものが全体の約8割以上を占めている。

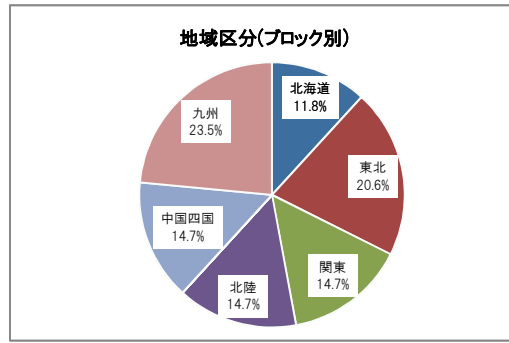
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1999年以前	5	14.7	14.7
2000～2004年	5	14.7	14.7
2005年	4	11.8	11.8
2006年	4	11.8	11.8
2007年	2	5.9	5.9
2008年	14	41.2	41.2
不明(無回答)	0	0.0	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	34



## ② 取組の場所

取組の地域区分(ブロック別)では、「九州」が23.5%で最も高く、次いで、「東北」が20.6%、「関東」と「北陸」が14.6%の順となっている。

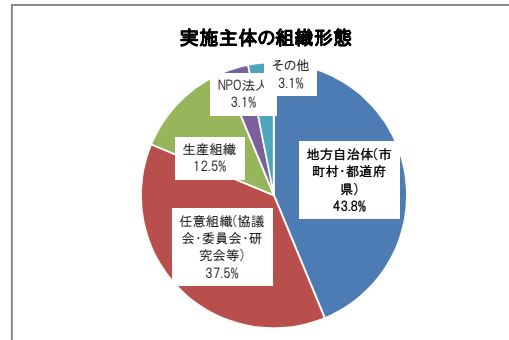
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
北海道	4	11.8	11.8
東北	7	20.6	20.6
関東	5	14.7	14.7
北陸	5	14.7	14.7
東海	0	0.0	0.0
近畿	0	0.0	0.0
中国四国	5	14.7	14.7
九州	8	23.5	23.5
沖縄	0	0.0	0.0
不明(無回答)	0	0.0	0.0
サンプル数(%ベース)	34	100.0	34



## ③ 実施主体の組織形態

実施主体の組織形態は、「市町村又は都道府県等の地方自治体」が43.8%と最も高く、次いで、「協議会・委員会・研究会等の任意組織」が37.5%の順で、以下、「生産組織」が12.5%、「NPO法人」が3.1%となっている。

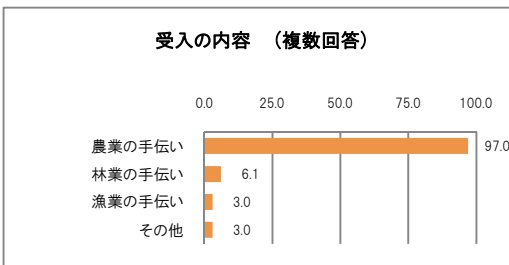
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
地方自治体(市町村・都道府県)	14	41.2	43.8
任意組織(協議会・委員会・研究会)	12	35.3	37.5
生産組織	4	11.8	12.5
NPO法人	1	2.9	3.1
その他	1	2.9	3.1
不明(無回答)	2	5.9	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	32



## ④ 受入の内容

受入内容は、「農業の手伝い」が97%と最も高く、次いで、「林業の手伝い」が6.1%、「漁業の手伝い」が3%の順となっている。

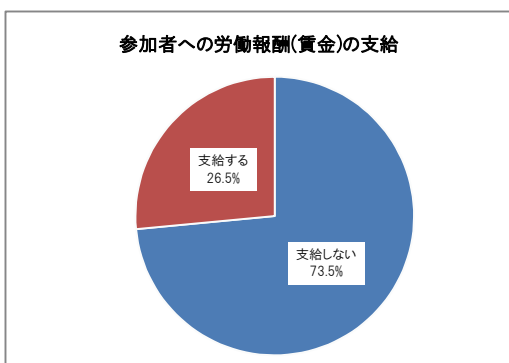
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
農業の手伝い	32	94.1	97.0
林業の手伝い	2	5.9	6.1
漁業の手伝い	1	2.9	3.0
その他	1	2.9	3.0
不明(無回答)	1	2.9	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	33



## ⑤ 参加者への労働報酬(賃金)の支給

利用者に対する労働報酬(賃金)の支給は、「支給しない」が73.5%で最も高く、「支給する」が26.5%となっている。

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
支給しない	25	73.5	73.5
支給する	9	26.5	26.5
不明(無回答)	0	0.0	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	34

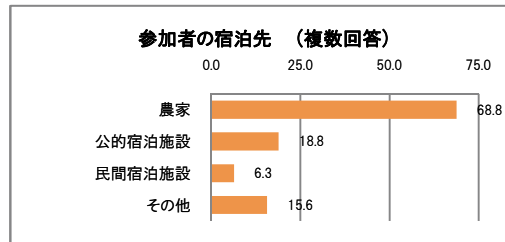


## ⑥ 参加者の宿泊先

参加者の宿泊先は、「農家」が68.8%、「公的宿泊施設」が18.8%、「民間宿泊施設」が6.3%の順となっている。その他では、「漁家」、「農家民宿」、「公民館」が挙げられる。

■参加者の宿泊先(複数回答)

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
農家	22	64.7	68.8
公的宿泊施設	6	17.6	18.8
民間宿泊施設	2	5.9	6.3
その他	5	14.7	15.6
不明(無回答)	2	5.9	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	32



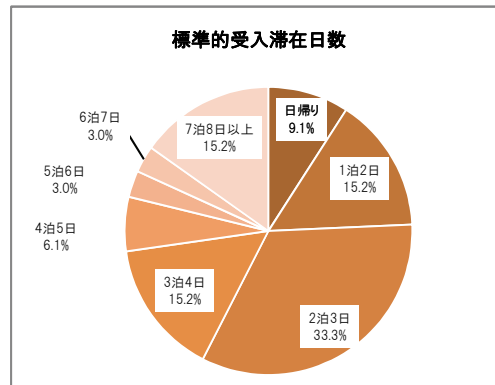
## ⑦ 参加者の受入滞在日数

標準的な受入日数は、「2泊3日」が30.4%と最も高く、次いで、「3泊4日」と「3泊4日」と「7泊8日」とが15.2%で、「日帰り」が9.1%の順となっている。

(標準的な受入滞在日数)

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
日帰り	3	8.8	9.1
1泊2日	5	14.7	15.2
2泊3日	11	32.4	33.3
3泊4日	5	14.7	15.2
4泊5日	2	5.9	6.1
5泊6日	1	2.9	3.0
6泊7日	1	2.9	3.0
7泊8日以上	5	14.7	15.2
不明(無回答)	1	2.9	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	33

平均値	9 日
中央値	2 日
最大値	89 日
最小値	0 日



(最短の受入滞在日数)

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
日帰り	4	11.8	22.2
1泊2日	8	23.5	44.4
2泊3日	3	8.8	16.7
3泊4日	3	8.8	16.7
不明(無回答)	16	47.1	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	18

平均値	3 日
中央値	1 日
最大値	29 日
最小値	0 日

(最長の受入滞在日数)

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
2泊3日	3	8.8	21.4
3泊4日	3	8.8	21.4
4泊5日	1	2.9	7.1
5泊6日	0	0.0	0.0
6泊7日	2	5.9	14.3
7泊8日~13泊14日	1	2.9	7.1
14泊15日~20泊21日	1	2.9	7.1
21泊22日~27泊28日	0	0.0	0.0
28泊29日以上	3	8.8	21.4
不明(無回答)	20	58.8	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	14

平均値	39 日
中央値	5 日
最大値	364 日
最小値	2 日

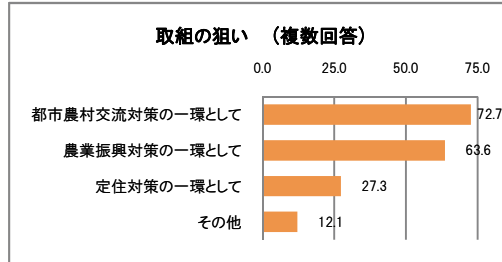
## (2) 取組の狙いと効果について

### ① 取組の狙い

取組の狙いは、「交流対策」が72.7%と最も高く、次いで、「農業振興」が63.8%、「定住対策」が27.3%の順となっている。

その他では、「農作物のPR」、「担い手・後継者対策」等が挙げられる。

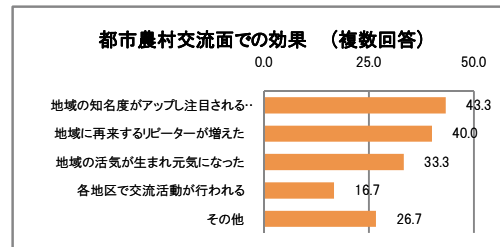
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
都市農村交流対策の一環として	24	70.6	72.7
農業振興対策の一環として	21	61.8	63.6
定住対策の一環として	9	26.5	27.3
その他	4	11.8	12.1
不明(無回答)	1	2.9	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	33



### ②-1 都市農村交流面での効果

都市農村交流面での効果は、「地域の知名度がアップし注目されるようになった」が43.3%と最も高く、次いで、「地域に再来するリピーターが増えた」が40%、「地域の活気が生まれ元気になった」が33.3%、「各地区で交流活動が行われる」が16.7%の順となっている。その他では、「取組が始まったばかりで効果は見えていない」等が挙げられる。

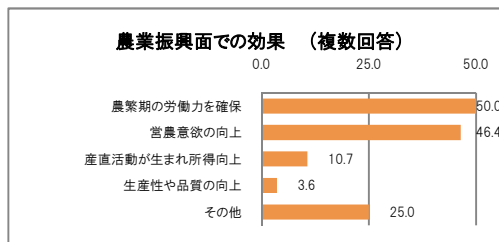
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
地域の知名度がアップし注目される	13	38.2	43.3
地域に再来するリピーターが増えた	12	35.3	40.0
地域の活気が生まれ元気になった	10	29.4	33.3
各地区で交流活動が行われる	5	14.7	16.7
その他	8	23.5	26.7
不明	4	11.8	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	30



### ②-2 農業振興面での効果

農業振興面での効果(複数回答)は、「農繁期の労働力を確保できた」が50%と最も高く、次いで、「営農意欲の向上に結びついた」が46.4%、「産直活動が生まれ所得向上に結びついた」が10.7%の順となっている。その他では、「食育啓発に結びついた」、「まだ効果が見込まれるまでに至っていない」等が挙げられる。

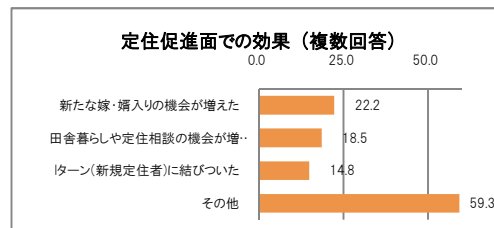
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
農繁期の労働力を確保	14	41.2	50.0
営農意欲の向上	13	38.2	46.4
産直活動が生まれ所得向上	3	8.8	10.7
生産性や品質の向上	1	2.9	3.6
その他	7	20.6	25.0
不明	6	17.6	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	28



### ②-3 定住促進面での効果

定住促進面での効果は、「新たな嫁・婿入りの機会が増えた」が22.2%と最も高く、次いで、「田舎暮らしや定住相談の機会が増えた」が18.5%、「Iターン(新規定住者)に結びついた」の14.8%の順となっている。その他では、「農業・農村を知ってもらおう機会となった」、「まだ効果が見込まれるまでに至っていない」等が挙げられる。

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
新たな嫁・婿入りの機会が増えた	6	17.6	22.2
田舎暮らしや定住相談の機会が増	5	14.7	18.5
Iターン(新規定住者)に結びついた	4	11.8	14.8
その他	16	47.1	59.3
不明	7	20.6	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	27



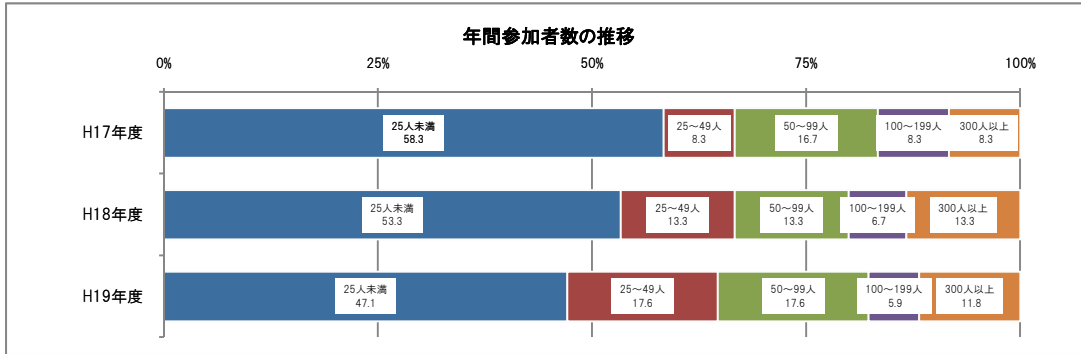
### (3) 利用状況について

#### ① 年間参加者数

平成19年度の一カ所当たりの年間参加者数は、「25人未満」が47.1%と最も高く、次いで、「25～49人」と「50～99人」とが17.6%の順となっている。

平成17年から19年の3ヶ年の推移を見ると、「25人未満」が11.2ポイント減少し、「25～49人」が9.1ポイント増加、「300人以上」が3.5ポイント増加している。

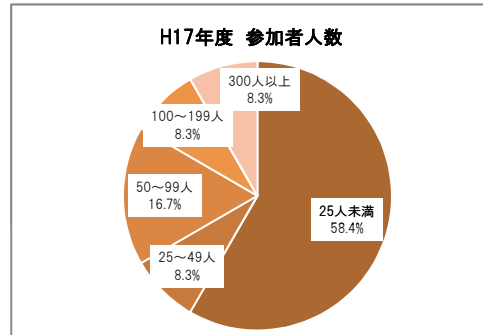
カテゴリ	H17年度	H18年度	H19年度
25人未満	58.3	53.3	47.1
25～49人	8.3	13.3	17.6
50～99人	16.7	13.3	17.6
100～199人	8.3	6.7	5.9
200～299人	0.0	0.0	0.0
300人以上	8.3	13.3	11.8



■H17年度 参加者人数

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
25人未満	7	20.6	58.3
25～49人	1	2.9	8.3
50～99人	2	5.9	16.7
100～199人	1	2.9	8.3
200～299人	0	0.0	0.0
300人以上	1	2.9	8.3
不明	22	64.7	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	12

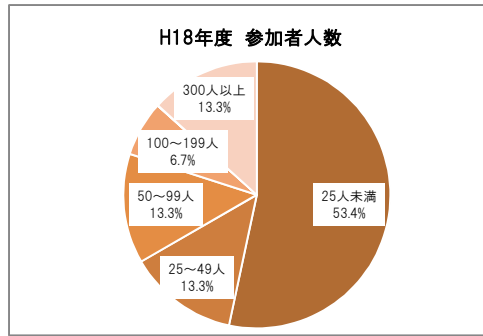
平均値	58人
中央値	14人
最大値	324人
最小値	2人
合計値	690人



■H18年度 参加者人数

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
25人未満	8	23.5	53.3
25～49人	2	5.9	13.3
50～99人	2	5.9	13.3
100～199人	1	2.9	6.7
200～299人	0	0.0	0.0
300人以上	2	5.9	13.3
不明	19	55.9	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	15

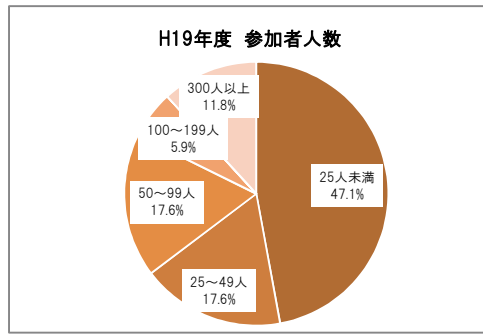
平均値	88人
中央値	13人
最大値	467人
最小値	2人
合計値	1,315人



■H19年度 参加者人数

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
25人未満	8	23.5	47.1
25～49人	3	8.8	17.6
50～99人	3	8.8	17.6
100～199人	1	2.9	5.9
200～299人	0	0.0	0.0
300人以上	2	5.9	11.8
不明	17	50.0	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	17

平均値	96人
中央値	25人
最大値	560人
最小値	1人
合計値	1,631人

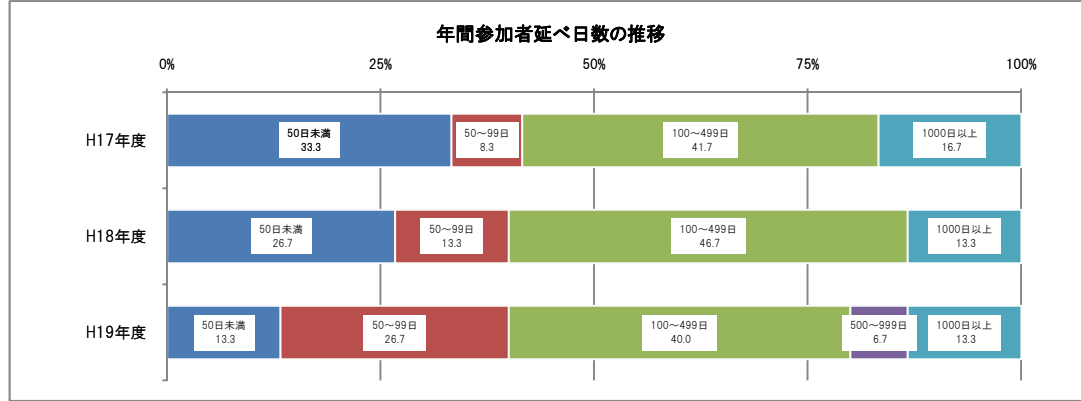


## ② 年間参加者延べ日数

平成19年度の一カ所当たりの年間参加者延べ日数は、「100～499日」が40%と最も高く、次いで、「50～99日」が26.7%、「50日未満」が13.3の順となっている。

平成17年から19年の3ヶ年の推移を見ると、「25日未満」が20ポイント減少し、「50～99日」が18.4ポイント増加している。

カテゴリ	H17年度	H18年度	H19年度
50日未満	33.3	26.7	13.3
50～99日	8.3	13.3	26.7
100～499日	41.7	46.7	40.0
500～999日	0.0	0.0	6.7
1000日以上	16.7	13.3	13.3

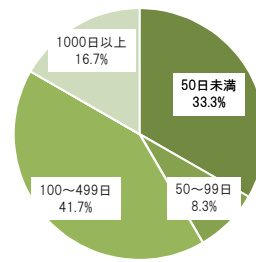


### ■H17年度 参加者延べ日数

カテゴリ	件数	(全体%)	(除不)%
50日未満	4	11.8	33.3
50～99日	1	2.9	8.3
100～499日	5	14.7	41.7
500～999日	0	0.0	0.0
1000日以上	2	5.9	16.7
不明	22	64.7	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	12

平均値	464 日
中央値	148 日
最大値	2,640 日
最小値	5 日
合計値	5,562 日

### H17年度 参加者延べ日数

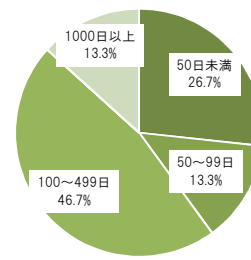


### ■H18年度 参加者延べ日数

カテゴリ	件数	(全体%)	(除不)%
50日未満	4	11.8	26.7
50～99日	2	5.9	13.3
100～499日	7	20.6	46.7
500～999日	0	0.0	0.0
1000日以上	2	5.9	13.3
不明	19	55.9	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	15

平均値	440 日
中央値	243 日
最大値	2,181 日
最小値	5 日
合計値	6,600 日

### H18年度 参加者延べ日数

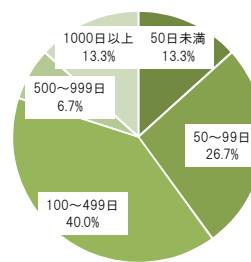


### ■H19年度 参加者延べ日数

カテゴリ	件数	(全体%)	(除不)%
50日未満	2	5.9	13.3
50～99日	4	11.8	26.7
100～499日	6	17.6	40.0
500～999日	1	2.9	6.7
1000日以上	2	5.9	13.3
不明	19	55.9	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	15

平均値	509 日
中央値	119 日
最大値	2,578 日
最小値	5 日
合計値	7,628 日

### H19年度 参加者延べ日数



### ③ 男女別構成

男女別構成は、「男性比率が多いもの」が57.1%、「男性と女性比率が同じもの」7.1%、「女性比率が多いもの」35.7%となっている。

分類		男性比	女性比		小計	備考(%)
男性比率が多いもの	事例A	100	-	1		
	事例B	100	-	1		
	事例C	82	18	1		
	事例D	65	35	1		
	事例E	59	41	1		
	事例F	57	43	1		
	事例G	54	46	1		
	事例H	52	48	1	8	57.1%
男性と女性比率が同じもの	事例I	50	50	1	1	7.1%
女性比率が多いもの	事例J	48	52	1		
	事例K	48	52	1		
	事例L	46	54	1		
	事例M	30	70	1		
	事例N	16	84	1	5	35.7%
					14	100.0%

### ④ 年代別構成

年齢別構成は、「20代を主体とする構成」が56.3%、「20代から60代までの幅広い層による構成」が43.7%の割合となっている。

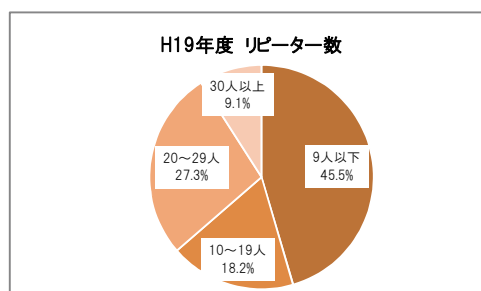
		10代(%)	20代(%)	30代(%)	40代(%)	50代(%)	60代(%)	備考
20代を主体とする構成	事例a	100	-	-	-	-	-	
	事例b	-	100	-	-	-	-	
	事例c	-	100	-	-	-	-	
	事例d	-	100	-	-	-	-	
	事例e	-	100	-	-	-	-	
	事例f	-	100	-	-	-	-	
	事例g	-	78	17	5	-	-	
	事例h	-	75	25	-	-	-	
	事例i	15	69	11	5	-	-	56.3%
	事例j	6	29	29	18	12	6	
比較的幅広い年代層による構成	事例k	2	24	22	11	21	20	
	事例l	10	6	21	15	21	27	
	事例m	11	18	17	8	18	28	
	事例n		9	15		38	38	
	事例o	10	19		3	26	42	
	事例p	6	14	2	9	27	42	43.7%

### ⑤ 参加者のリピーター数

平成19年度の参加者のリピーター数は、「9人以下」が45.5%、「20～29人」が27.3%、「10～19人」が18.2%となっている。

カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
9人以下	5	14.7	45.5
10～19人	2	5.9	18.2
20～29人	3	8.8	27.3
30人以上	1	2.9	9.1
不明	23	67.6	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	11

平均値	12.91 人
中央値	10 人
最大値	30 人
最小値	1 人
合計値	142 人



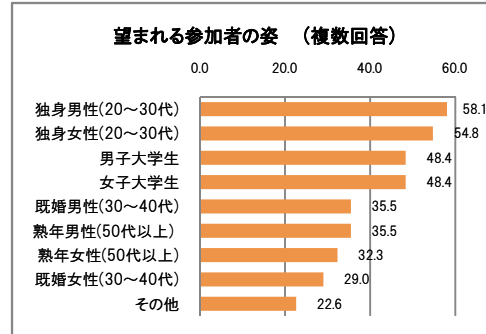
#### (4) 参加者の募集について

##### ① 望まれる参加者の姿

望まれる参加者の姿は、「独身男性(20～30代)」と「独身女性(20～30代)」が5割以上と最も高く、次いで、「男子大学生」と「女子大学生」が48.4%、「既婚男性(30～40代)」と「熟年男性(50代以上)」が35.5%の順となっている。

その他では、「健康で元気に農作ができる人なら誰でも参加してほしい」等が挙げられる。

カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
独身男性(20～30代)	18	52.9	58.1
独身女性(20～30代)	17	50.0	54.8
男子大学生	15	44.1	48.4
女子大学生	15	44.1	48.4
既婚男性(30～40代)	11	32.4	35.5
熟年男性(50代以上)	11	32.4	35.5
熟年女性(50代以上)	10	29.4	32.3
既婚女性(30～40代)	9	26.5	29.0
その他	7	20.6	22.6
不明(無回答)	3	8.8	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	31

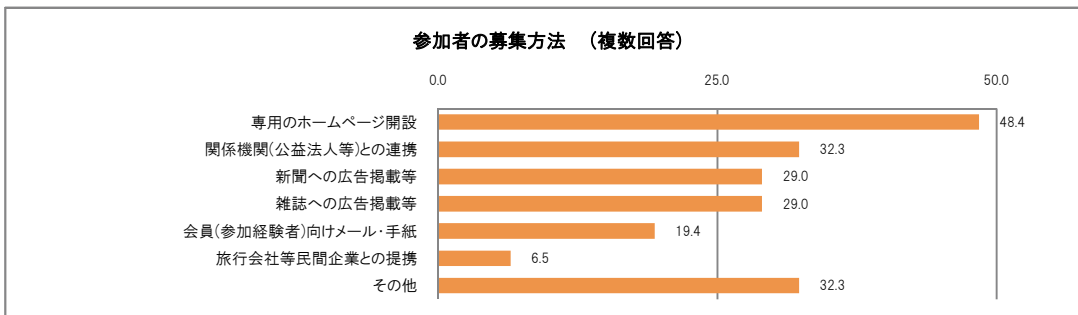


##### ② 参加者の募集方法

参加者の募集方法は、「専用のホームページ開設」が48.4%と最も高く、次いで、「関係機関(公益法人等)との連携」が32.3%、「新聞への広告掲載等」と「雑誌への広告掲載等」が29%、「会員(参加経験者)向けメール・手紙」が19.4%の順となっている。

その他では、「首都圏での啓発チラシの配布」等が挙げられる。

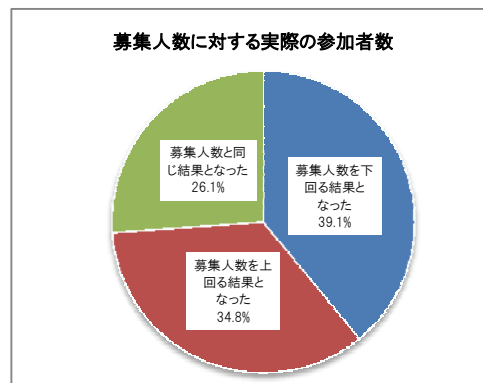
カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
専用のホームページ開設	15	44.1	48.4
関係機関(公益法人等)との連携	10	29.4	32.3
新聞への広告掲載等	9	26.5	29.0
雑誌への広告掲載等	9	26.5	29.0
会員(参加経験者)向けメール・手紙	6	17.6	19.4
旅行会社等民間企業との提携	2	5.9	6.5
その他	10	29.4	32.3
不明	3	8.8	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	31



##### ③ 募集人数に対する実際の参加者数

初年度の募集人数に対する実際の参加者は、「募集を下回る結果となった」が39.1%と最も高く、次いで、「募集を上回る結果となった」が34.8%、「募集人数と同じ結果となった」が26.1%となっている。

カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
募集人数を下回る結果となった	9	26.5	39.1
募集人数を上回る結果となった	8	23.5	34.8
募集人数と同じ結果となった	6	17.6	26.1
不明	11	32.4	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	23

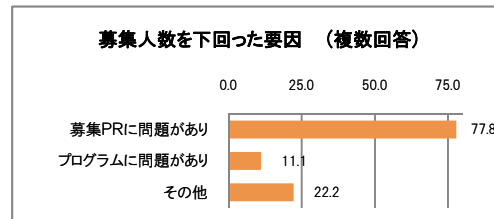


#### ④ 募集人数を下回った要因

前設問の「募集を下回る結果となった要因」として、「募集PRに問題あり」が77.8%、「プログラムに問題あり」が11.1%となっている。

その他では、「参加者の希望と受入農家の希望がマッチしなかった」等が挙げられる。

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
募集PRに問題あり	7	77.8	
プログラムに問題あり	1	11.1	
その他	2	22.2	
サンプル数(%ベース)	9	100.0	



#### ⑤ 改善を図るための取組

前設問の改善を図るための取組として、「募集地域を限定し、参加可能性の高い地域を選定した」、「ホームページ、雑誌での情報掲載期間を長くした」、「商工会や観光協会等の関係機関と連携を図った」、「日程調整により参加者を制限した」等があげられる。

#### (5) 今後の課題について

今後の課題は、「募集PR活動の強化による新規参加者の獲得」が48.3%と最も高く、次いで、「受入プログラムメニューの充実や拡充」が41.4%、「行政・地域住民・NPOや民間企業等との連携強化」が35.5%、「広域連携による効果的な取組の推進」が20.7%の順となっている。

その他では、「新規の受入農家の拡充」、「農家林家の期待が大きい半面、実際に受入るケースは少なく、意識改革が必要」等が挙げられる。

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
募集PR活動の強化による新規参加者の獲得	14	41.2	48.3
受入プログラムメニューの充実や拡充	12	35.3	41.4
行政・地域住民・NPOや民間企業等との連携強化	10	29.4	34.5
広域連携による効果的な取組の推進	6	17.6	20.7
参加者の組織化による地域応援団の形成	4	11.8	13.8
交流会・相談会等の開催による定住の促進	4	11.8	13.8
その他	6	17.6	20.7
不明(無回答)	5	14.7	
サンプル数(%ベース)	34	100.0	29

